

平成30年度第2回（通算第4回）三木市学校再編検討会議 要旨

日 時：平成30年11月5日（月）午後7時～9時

場 所：市役所5階 大会議室

出席者：

構 成 員 加治佐哲也 国立高等専門学校機構 監事
山下 晃一 神戸大学大学院 准教授
小山内政子 三木市区長協議会連合会 会長
神澤 廣美 三木市区長協議会連合会 副会長
安福 政明 三木市連合PTA 前会長
黒井 俊光 三木市連合PTA 前副会長
前田 信利 平田小学校 校長（小学校校長会）
野口 博史 緑が丘中学校 校長（中学校校長会）
事 務 局 西本則彦教育長、奥村浩哉教育振興部長、
生田淳仁学校教育課長、鍋島健一学校教育課副課長

傍聴人の数： 13名

1 開会あいさつ

（会長）

学校再編検討会議の役割は、様々な情報や意見を集約し、総合教育会議に提言することであることをまず確認する。

前回は7月にこの会を開催し、事務局からは、三木市の学校再編についての喫緊の課題や全体像について説明を受けた。保護者の方、地域の方に色々なご意見をまずはしっかりとお聞きすること、5年・10年先の各学校のある程度の人数を示すことを事務局には依頼していた。また、10月末までに全中学校区で地域部会を開催させていただいた。加えて、地区によって説明会という形で会を開かせていただいたところもある。

今日は事務局からの説明を受けた上で、委員から意見や提言をいただきたい。学校再編については、子どもたちのために、どのような環境が望ましいのかという事で方向性が見いだせるようにしたい。

2 報告事項

（事務局）資料を基に説明

- (1) 地域部会での「意見のまとめ」について
- (2) 学校再編に関する説明会等の状況について

（副会長）

意見のまとめを拝見した。多様な意見があるが、取り扱い方やどういう合意の水準で進めていくのかを考えなければならない。

「じっくり進めてほしい」という意見がある。しかし、今現在、学校に通

っている子どもたちの教育環境については、早急に検討する必要もある。全国で子どもの数が少なくなり、学校が減少している。各地域で学校再編が進んでいるが、地理的要因などからやむなく限界になると、小規模でも残すことになる。三木では、まだそこまで行っていない中で先手を打ち学校を残すのか、子どもの数が減っているから学校再編に取り組むという事なのか、意見からは読み取りづらい。「じっくり」についても、どういった期間をさしているのかの考えには至っていない。地域の皆さんには自分の近くの学校もだが、違う学校も見に行き、色々な学校、学びの様子があることを知った上で、考え方を示すことが大切かもしれない。

(委員)

中学校の人数は、なんとかしないといけないという思いがあり、再編には肯定的だと思う。小学校については、地域として大事な子どもたちを地域で育てたいという思いが強いため、今すぐというのは、早いのかなと思う。

(委員)

学校規模を重要視するあまり、無理な統合は行わない方がよい。地域住民との紛争が生じたり、通学する際に困難を招いたりすることは避けたいという意見がある。

(事務局) 資料を基に説明

(3) 学齢期の子ども的人口予測について

(4) 全国の小中一貫校・義務教育学校の設置状況について

(副会長)

例えば、明石市は神戸市の近くという影響もあり、企業が撤退した跡地にマンションが建っている。その地域の学校は、子どもが増えすぎて大変な事になっている。反対に、その周辺に過小規模校もあり、非常に苦しんでいる。一時的なことであるが、神戸市も同様のことが起きている。三木市の場合は、一時的な要素で人口が増大するというのは考えにくい。事務局で作っている数字どおりにはいかないのが、再編の際のあくまで一つの目安として捉える。

(会長)

子どもの推移を見ると、予想どおりであるが、厳しい。ある程度の規模のところはかなり減る。小中一貫校、義務教育学校は公立の学校でも今後かなり増えてくる。三木市が今抱えている少子化による新しい学校の形を模索するのは、全国的な動きである。今後、小学校だけや中学校だけの統合では間に合わない。縦の連結は今後も研究されると思うが、間違いなく効果があると言われている。例えば、中1ギャップを緩和したり、不登校が減少したり、学校内で縦の交流ができたりする。

今後の課題になると思うが、中学校で小規模校を残すのであれば、全教科の免許をもっている先生を揃えるのは厳しい等の課題もある。

3 協議事項

(1) 学校再編の喫緊の課題について

ア 中学校（志染中学校、星陽中学校）について

(委員)

いつ、どこで、どのようになるのか。人数が少ない分、何とかしなければという不安を持っている。時期を明確に、どちらの学校になるのかなど、悩んでいる。統合の仕方も、まとめて行くのか段階的に行くのかを聞かせてほしい。

(事務局)

一度に統合する場合や段階的に統合する場合があるが、それぞれメリット、デメリットがある。段階的に行った場合、教職員数は学級数で決まるので、最終年度に1学年だけ学校に残ると、教員の配置が2、3人になる。2、3人の教員が9教科の全部を教えなければならないということがあり、不都合が生じる可能性がある。

(会長)

この規模でいうと、ある時点でだいぶ前に予告して、一度に統合することが現実的ではないかと思う。

(委員)

中学校は小学校と違って縦の繋がりが強く、その中で様々な経験をするが、段階的に学年を移動させたら、1度も先輩の経験がない子どもが出てくる。

小学校と中学校については、役割に違う所があるので、統廃合については、小、中分けて考える方が良いと考えている。

(委員)

星陽中学校の子ども達は、通学距離が長いので、通学方法を考えておかなければならない。バスしかないのではないか。自転車でと言える距離ではないと思う。

(会長)

バスがなければ、選択肢にならないということか。交通手段が、確実に確保されるのかがはっきりしないと判断しづらい。

(事務局)

子どもの安全を確保するのは当然のことで、統合先が決まった場合の交通手段については、距離が長いときはバスを導入するのか、自転車で通わせるのか議論に上がる。

(委員)

志染中学校と星陽中学校を同じように考えるのは難しい。星陽中学校の生活圏の問題が提示されていたと思う。先を見通し、義務教育学校を考えると、志染小学校は中学校と同じ地域の学校と統合していくと思う。

星陽中学校には2つの小学校がある、口吉川小学校の子どもたちは、吉川中学校に通う方が楽な子が多かったり、豊地小学校も校区が広いので、吉川中に近い子もいたり、三木中学校に近い子もいたりするというような状況で

ある。

将来的に、吉川近隣地域で義務教育学校ができた時に、どの辺につくられるかによって、豊地小の子も「吉川近隣地域に新しくできた学校の方が通いやすいな」となってくる場合もあると思う。そうすると、あまり長いスパンで考えるということができないと思う。先ほど副会長がおっしゃった「じっくりと考えましょう」の「じっくり」について、時間をかけても、堂々巡りになってしまう可能性があるので、ある程度のところで結論を出して考えていけないといけない。ビジョンが出てくることによって、分かれて吉川中学校と三木中学校へ行くのか、吉川中学校に全部行くのか、という星陽中学校のビジョンも出てくる。

イ 吉川4小学校について

(事務局) 吉川4小学校の施設について説明

(委員)

みなぎ台小学校ができたころは、1学年2～3クラスあった。このクラス数を見れば、集約する学校の施設としては妥当と考える。

(委員)

吉川の4校の小学校は、交流を現在しているのか。

(事務局)

主には、行事を通じてしている。例えば、5年生の自然学校、6年生の修学旅行などは4校で一緒に行っている。学習分野についてもできるところはしている。人権学習などでは、講師に来ていただいて、話を聞いたり、話し合ったりするのを4校が集まって行っている。

(委員)

子ども達は、比較的和気あいあいとできるのかなと思うが、保護者だとなかなか和気あいあいというのは、小学校も中学校もできるものなのかなと思う。

(委員)

吉川中校区で、みなぎ台以外から通う子どもは、何らかの通学方法を考えなければならない。

(会長)

地域部会では吉川の4小学校について、統合で一致しているのか。

(事務局)

地域部会だけで判断するのは難しいが、統合した方がいいというご意見はある。また逆に、小規模校がいいというご意見も並行してある。いろいろな機会に地域の方とお話するが、4小学校の子どもの数から判断して、統合するべきではないかというご意見は耳にしている。

(委員)

4つの小学校がみなぎ台小学校で一つになるということは、その前に幼稚園も一つになっているので、丁寧に説明すれば、すんなりと行くのではない

かと思う。

子ども達がいい環境で学習するためには、みなぎ台小学校に集まることがベストだと思うので、その説明をきちんとしたらスムーズにいくと思う。子どもたちの教育についての説明が大切だ。

ウ 小学校（志染小学校、口吉川小学校、豊地小学校）について
（委員）

志染は横に長く校区がある。志染の吉田地区から緑が丘中学校に行くとなれば、結構交通量の多い所もある。もし、吉田地区の子どもは、自由が丘中学校の方が近いということになれば、歩いていけるので自由が丘中学校に行ってもいいのではないかと思う。やはり、通う子どもに合わせて決めてあげてほしい。画一的に、ここの地区やから、ここに行きなさいというのではなくて、行きたい地区があれば行けるようにしてあげたらどうか思う。

親にすると、自分たちが通った学校が無くなるのはものすごく寂しい。ある部分では、少人数であってもそういう所も認めていただきたい。

統廃合された場合、すぐ適応出来る子と性格的にできない子がいると思うので、その辺の気持ちを考えてほしい。

（会長）

志染小学校（中学校）に通う子どものうち、吉田地区の子を分割してというのではなく、選択するという方法もあるというものであった。

口吉川小学校や豊地小学校についても、中学校の統合によって変わってくる。

エ 通学方法について

（副会長）

地形の関係、昨今の交通事故や事件があり、自転車に若干抵抗があるのかと感じる。

和歌山県の例では、スクールバスを出していて、小学校の場合は放課後友達と遊びたいのに、スクールバスの時間があるから遊べないということもある。体力低下も心配されるので、体力作りの施設を作って体力向上をすることで、バスの整備をする際には、色々なことを考えねばならない面もある。

状況によってはスクールバスだけではなく、タクシー会社と契約する方法もある。少し似たような地形に絞りながら、全国の様子を調べてもらうのがいいと思う。ベストが何であるかは分からないが、考えられるデメリットについては、きちんと手立てを打っていく、それでもカバーできない所は仕方がないので、別の事をしていくことが必要である。地域部会から具体的なアイデアを聞いていくのもいい。スクールバスの費用の面も並行して調べていく必要がある。

（委員）

スクールバスの負担は、保護者が出すのか？

(副会長)

国庫補助金等もあるが、保護者の負担もあるかも知れない。

(会長)

地域振興のため、自治体が負担するという考え方もある。また一方でご自身が希望した学校に行く事になれば、ある程度自分で負担していただくこともあるかもしれない。

(2) 学校再編の全体案について

ア 学校再編の全体案について

イ 5校程度とする案について

(会長)

全体像としては、喫緊のところから統合し、小中一貫校や義務教育学校にしていく案が示された。地形や現在の学校配置から勘案して、5校程度という案が示されている。吉川中校区、星陽中校区を合わせた面積はかなり広いが、それをどうしていくのか。

(委員)

小規模校には、小規模校のメリットがある。年齢が低い方が、小規模校のメリットが大きいと思う。中学生くらいになれば、ある程度の集団規模があった方がメリットは大きい。小学校と中学校では、集団規模の必要性は変わってくる。そういう意味で中学校については、ある程度スピード感をもって話を進めていった方が良い。

一方、小学校については、中学校と同じように小学校1年に入った段階で、「あなたはここへ行きなさい。」と言われたら、ちょっとしんどいかなと思う。

保護者と地域という二つの視点で考えた時に、そこにはやっぱり違いがある。保護者は、自分の子どもが学校とどう関係するかが一番の関心で、地域は将来的にこの地域がどうなっていくかが一番の関心である。そこは多少の違いがある。

もし私が地域の人間であったとすれば、将来的にどこにどんな学校が建つのかが知りたい。保護者であったとしたら、どういうふうなロードマップで進んでいるのかが知りたい。極端なことを言うと、小学校低学年だけ残すということもあっていいのではないかなと思う。小学校3年生までは地域の学校で過ごし、4年生から中学校区の学校で過ごすなどの案もある。

(委員)

中学校については、星陽中学校、志染中学校を見ていても、早くしていかないといけないというのが共通認識になっている。どこと統合するかということになってくると、一つにまとめるのは難しい。方向性が決まれば、保護者は進んでいくと思う。小学校については、時間をかけていかないといけない。

今後人口が減り、例えば小学校では、1クラス10人未満になり、全校で30人もいない状況になってくる。今は良いが、これで続けられるのか。再編の

方法によっては、兄弟が別々の中学校になる可能性もあり、保護者は大変であるため、もう少し議論をしていく必要がある。

全体像のイメージが持ちにくいので、分かりやすく伝えていただけたらイメージができるのではないかと思う。

(会長)

こういう問題はいろんな意見が出てくるが、それは当然であり、むしろ意見を出して議論をすることに大きな意味がある。いただいた意見は、それぞれの立場においては、全部正しいものだと考えられる。しかし、今後は、総合的な見地から判断し、何らかの1つの方針を決めて行かないといけない。そのためには、ある程度の構図なりビジョンなり、いくつかの選択肢が示されてこないと議論が常に拡散する。その中で議論する方が、現実的で効率的である。

事務局から例えば、学校名を入れた「こういう案はいかがですか」といくつか出し、それを検討していく。そして、いくつか出たものをつなぎ合わせるのが良い。いずれ今年度中には何らかの方針案、来年度には実施計画を作らないといけない。並行して小中一貫校や義務教育学校、通学方法の研究なども更に必要となってくる。

(委員)

中学校統合、小学校統合、そこからの小中一貫校をつくり、将来的には義務教育学校という段階を踏まなければならないのか。義務教育学校を5校作りますというタイミングで、ここの学校はここの校区の子どもが行きましようというわけにはいかないのか。段階を踏まないといけないのか。

(会長)

まず中学校、そして小学校が推移を見ながら再編し、小中一貫校にして最終的に義務教育学校にしていく。この流れは極めて自然で、他市町の多くがこの方法をとる。国もそういった諸課題を解決するために、小中一貫校や義務教育学校をつくった経緯がある。違和感はない。

これからは、スケジュールと組み合わせを考えていく。自由選択制の意見も出た。いくつかの案として、今後示さないといけない。

(事務局)

いただいたご意見について検討し、示せる案を作成していく。

(会長)

今日の意見をまとめさせていただくと、

- ・小学校と中学校は、取組の早さを分けて検討するほうが良い。
- ・喫緊の課題のところは優先して取り組むべきだが、志染小学校、口吉川小学校、豊地小学校は、中学校との絡みがはっきりしないと分からない。学校選択制も考えていかないといけない。
- ・通学方法については、費用負担のあり方、バスやタクシーだけでなく、子どもの学習効果や健康面など、いろんな事も含めて研究する。
- ・考えが深められる案（学校名を入れた構図、ビジョン）をいくつか作る。

(副会長)

確認だが、中学校については、スピード感をもって進める。志染中学校、星陽中学校についてはできるだけ早く進める。統合先については、地域と意見交換をしながら進めることとなる。

(会長)

小学校を本校と分校の二つに分けて考えるという意見も出てきた。

(委員)

5校程度とする案について、私自身は妥当かなと考える。極端にこれを減らすことについては、怖いと思う。3校のイメージでは、やり過ぎと思う。

(会長)

どの時点で、とりあえずの最終形とするのか。それによって変わる。「学校」というものの形が、将来的にどうなるかは分からない。

4 閉 会

(副会長)

地元の方のご意見を拝見したときに、気になったことがいくつかある。ある程度共通するビジョンを持ち、実際やってみながら考えて工夫してやらないといけない事がある。

1つ目は、事務局だけではなく、地域の皆さんが自ら考え、行動していくという意識をもつ必要があると思う。危機意識がまだ薄い地域があるのは、意識が薄いだけで危機が薄いわけではないので、そこは注意しないといけない。危機意識を共有しながら考えていかないといけない。色々な意見をぶつけ合って、新しいエネルギーを生み出せないかと考える。

二つ目は、「全体の校区の線引きをやり直せないか」という一方で、「自分の地域から学校が無くなる事については抵抗がある」という事になってくると、どのように村の線引きをやり直せばいいのかということになる。

人口が減ってきている中で、少なくとも若い世代が減ってきている中で、人の繋がりが広がっていったらいいと思う。三木市の子どもたちは、三木市全体で育てるという意識でやっていくことが大切だと思う。学校での子どもの繋がりはどういったものが良いのか、大人の繋がりはどうすればいいのか、今の繋がりとはい違う繋がりをつくる観点が必要だと考える。